



ともに、生きる。江戸川区

江戸川区

面積※49.09km²
 世帯数346,769世帯
 人口688,602人
 (うち外国人).....35,055人
 予算2,849億円
 職員数3,748人

※境界の一部が未定のため、国土
 地理院発表の面積とは異なる。

歴史・見所・名所

昭和7(1932)年に7町村が合併し、人口10万人で誕生した江戸川区は、令和4(2022)年、区制90周年を迎えました。昭和30年代には急増する人口に都市基盤整備が追いつかず、区民生活に直結する環境面の改善が急務となりました。そこで、区画整理事業をはじめ、下水道整備や鉄道の誘致、公園の造成などさまざまなまちづくり事業を推進してきました。同時に「ゆたかな心 地にみどり」を合言葉に、区民と行政の二人三脚による「環境をよくする運動」を展開し、今では快適で安心して暮らせるまちへと発展を遂げています。

本区では、区民と共に育んできた環境が見所や名所となっています。全国に先駆けて整備した親水公園をはじめ、荒川右岸に広がる小松川千本桜、区内を東西に流れる江戸時代からの運河・新川に沿った新川千本桜、バラが咲き誇るフラワーガーデン、小岩菖蒲園などの花の名所は、四季折々の情景を創り出し、人々の心に潤いを与えます。また、都内初のラムサール条約登録湿地となった葛西海浜公園では、多くの渡り鳥や水生生物の観察をはじめ、潮干狩り、海水浴も楽しめます。その他、600種を超える海の生き物と出会える葛西臨海水族園、乗馬体験ができるポニーランドや66種類500頭以上が飼育されている自然動物園など、多様な生き物との触れ合いも楽しめます。

このように、東京駅からわずか15分の場所に都市機能と豊かな自然が共生する、世界でも類を見ないまちとなっています。

概要

- (1) 江戸川区は23区の最東端に位置し、東に江戸川、西に荒川、南は東京湾と、三方を川と海に囲まれています。公園面積の広さは23区一を誇り、区内を縦横に走る親水公園・親水緑道と共に、水と緑豊かなまちなみを創出しています。また、令和4(2022)年には、区内の樹木数は690万本を数え、目標であった区民一人あたりの樹木数10本を達成しました。
- (2) 23区でも有数の子どもが多いまちであり、まちなかには子どもたちの声があふれています。令和2(2020)年には23区初の区立児童相談所を開設するなど、地域全体で子どもの成長を温かく見守る風土が根付いています。
- (3) 老人クラブ数は23区で最も多く、後期高齢者医療制度の医療費は23区で最も低い、高齢者が元気なまちです。おまつりをはじめ、さまざまな地域活動が活発に行われています。
- (4) 金魚の養殖、伝統工芸品、花卉栽培などの地場産業が盛んです。



葛西海浜公園

都内で初めてラムサール条約登録湿地に登録



J R小岩駅前再開発

「100年築えるまちづくり」を目指し、複数の大規模再開発事業が進行中



江戸川区花火大会

1万4千発の花火が夜空を彩る夏の風物詩



新川千本桜

小松川千本桜に並んで本区を代表する桜の名所

中でも小松菜収穫量、花と野菜の出荷額は23区一であり、区内には今も農の風景が守られています。

- (5) 長野県安曇野市、山形県鶴岡市、新潟県南魚沼市と友好都市盟約を結んでいます。また、従来からの姉妹都市であるオーストラリアのセントラルコースト市に加え、令和4(2022)年6月には、新たにハワイ州ホノルル市と姉妹都市盟約を結びました。

主要課題

(1) 大規模水害対策

陸域の7割が満潮位以下である本区は、大規模水害に見舞われるリスクが高くなっています。そのため、国・都と協力した高規格堤防の整備、駅前再開発にあわせて建物同士をデッキでつなぐ高台まちづくり、雨水貯留施設の整備などのハード面の対策を進めるとともに、水害ハザードマップの周知、自主的広域避難者向けの宿泊補助金の創設、自力での避難が困難な方のための個別避難計画の作成支援など、ソフト面の対策も行うことで、水害に強く安全・安心に暮らせるまちになっています。

(2) 新庁舎の建設、公共施設の再編・整備

現庁舎は建設から60年以上が経過しており、さまざまな課題を抱えています。そこで現在、船堀駅近くに新庁舎を建設する計画が進められています。新庁舎は「日本一の災害対応拠点」を目指すとともに、「来庁しなくてもよい区役所」とするべく、デジタル技術を活用しながら、窓口のあり方や仕事の進め方などの見直しも進めています。また、老朽化により更新時期を迎える公共施設の再編・整備も喫緊の課題です。いずれも、将来のあるべき姿を見据えて総合的に進めていきます。

将来展望

本区の人口はこれまで増加を続け、令和元(2019)年10月には人口70万人に達しましたが、本区が行った推計によると今後減少局面に転じ、2100年にかけて、人口、歳入、職員数は現在の3分の2程度になるとされています。そのような中、性別や年齢、国籍、障害の有無などに関わらず、「誰もが安心して自分らしく暮らせるまち」すなわち「ともに生きるまち」の実現に向けて、さまざまな取組みを行っています。

令和3(2021)年7月には、今日生まれた子どもたちが生きる2100年の未来に向けて、共生社会の実現のために区の果たすべき役割を定めた「ともに生きるまちを目指す条例」を制定しました。また令和4(2022)年8月には、長期的な構想である「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」及び中期的な計画である「2030年の江戸川区(SDGsビジョン)」を策定しました。両ビジョンの策定にあたっては、区の広報誌・ホームページでの意見募集や、ワークショップ、オンラインミーティングなどさまざまな場を設けて、区民や区内事業者、関係団体、区議会議員、有識者の皆様から数多くのご意見をいただきました。それらを紡ぎあわせて作り上げられたビジョンは、まさに「皆様の声」そのものです。

今後も多くの課題が待ち受けますが、長年かけて培われてきた「地域力」を生かして、「ともに生きるまち」の実現を目指していきます。



小松川境川親水公園
かつての清流を甦えらせた区民のオアシス「親水公園」



パラスポーツ
東京2020パラリンピック全22競技に取り組める環境を整備



小岩菖蒲園
4,900平方メートルの菖蒲田には約5万本の花菖蒲が咲き誇る